● 板敷の間の風景 ●

茶の間とも呼ばれ、家族が食事をする場所。板敷とは床に板が敷かれていることで、広間や台所から近く、家の中でも長い時間この場所で生活していた。玄関からも近く、お客様や人の出入りも確認できるように障子の間にガラスが貼ってある。食器や道具は棚にしまってあり、いつでも取り出せるようになっている。

● 女中部屋の風景 ●

かつて女中さんが寝食をしていた場所。引き出しの中には、女中用の座布団の他に、家事で使えるよう様々な小道具が収納されていた。広間や座敷からは離れており、家主と生活する場は離れていた。また、土蔵や納屋（味噌部屋・道具部屋）から食料や道具をすぐ運び出せるように、女中部屋は蔵から近い場所にある。女中部屋の障子を開けると、土間との間の中庭に洗濯する場があったり、水桶など水仕事に必要な道具が置かれ、女中による家事仕事の動線が確保されている。

● 土蔵内のつくり ●

外壁を土壁として漆喰などで仕上げられるもの。　日本の伝統的な建築様式のひとつで、倉庫や保管庫として建てられる。

■床

内部は涼しくなっており、保存に適している。床が開くようになっていて、中に作物などを保存する。取り外しが可能で、洪水時は床下を乾かすことができるよう工夫されている。